

nese hospital

(本邦の外科領域におけるイミペネム耐性緑膿菌のサーベイランスに関する臨床的検討)

佐々木 秀

展開医科学専攻病態制御医科学講座(外科学)

院内感染制御の目的に緑膿菌のサーベイランス法について検討した。1987年から2001年の期間に分離保存された緑膿菌511株を対象とし、イミペネム耐性株分離率の年次別推移を検討し、血清型別分類を表現型マーカーとして、パルスフィールドゲル電気泳動法(PFGE)を用いた遺伝子型別分類を遺伝子型マーカー

として耐性株分離率と院内感染との関連を検索した。また、イミペネム耐性機序へのメタロβ-ラクタマーゼの関与を検索した。

その結果1990年代前半にイミペネム耐性緑膿菌の大規模な院内感染によるアウトブレイクの存在が証明されたが、最近では耐性菌のアウトブレイクは抑制されており、メタロβ-ラクタマーゼ産生株の蔓延も認められなかった。しかし遺伝子型の詳細な検討で散発的な院内感染の存在が確認されておりイミペネム耐性株の動向は表現型マーカーと遺伝子型マーカーを組み合わせることで常に監視する必要があると結論した。